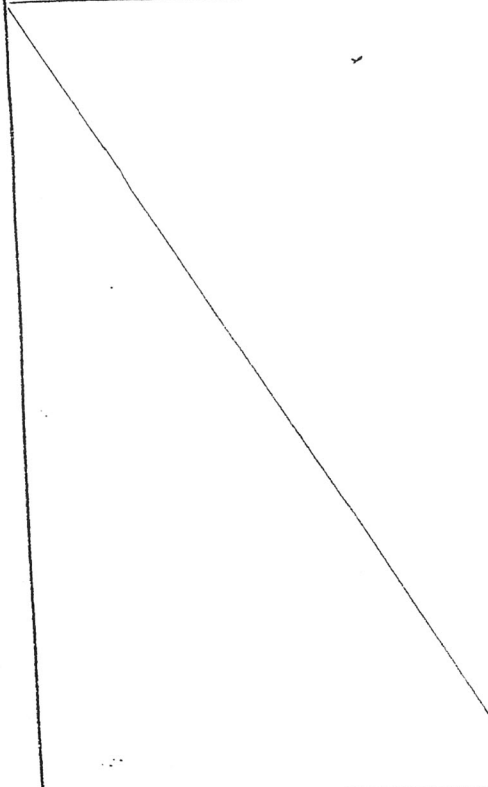
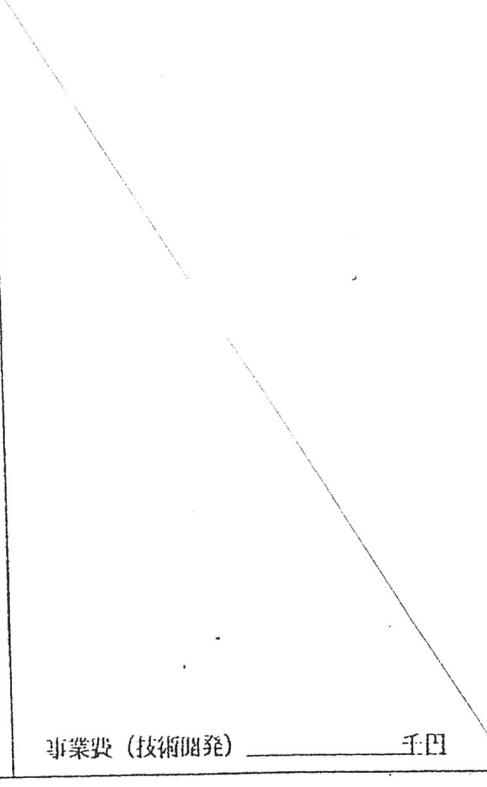


様式2

平成2年 技術開発実施報告・~~計画~~

課題	広葉樹天然林の人工補整施業法		<input checked="" type="radio"/> 新規 <input type="radio"/> 継続	担当	造林課	開発箇所	高岡
目的	広葉樹優良林分を造成するため、人工補成法の技術と投資効果を究明する。		指示・ <input checked="" type="radio"/> 自主	開発期間 昭和60年度～平成2年度			
年度別実施経過	2年度 実施報告	年度 実施計画		備考 (評価及び普及計画等)			
<div style="text-align: center;">  </div>	成長調査(試験区)	<div style="text-align: center;">  </div>					
	事業費(技術開発) _____ 千円						

技術開発完了報告

課題名		広葉樹天然林の人工補整施業法																								
指示区	自主分	自主	開発期間	昭和60年 ～平成2年	担当	造林課																				
目標	広葉樹優良林分を造成するため、人工補整法の技術と投資効果を究明する。																									
結果	試験区と対照区を比較した。根元径で1.1倍から2.0倍、樹高で1.1倍から1.2倍となり、芽かき、刈出し(除伐)により、投資効果がみられた。		技術開発経費内訳																							
			<table border="1"> <tr> <td colspan="2">〈人工〉</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>物件費</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基 礎</td> <td>&lt;</td> <td>&gt;</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>&lt;</td> <td>&gt;</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				〈人工〉		千円	物件費			役務費			人件費			基 礎	<	>	その他	<	>	合 計	
〈人工〉		千円																								
物件費																										
役務費																										
人件費																										
基 礎	<	>																								
その他	<	>																								
合 計																										
開発経過と調査内容																										
1. 試験地設定																										
(1) 芽かき試験(1齡級林分)																										
ア. 設定、昭和60年度																										
イ. 場所、宮崎県東諸県郡高岡町宇巻尾国有林5K8林小班内 宇去川国有林5Kは "																										
ウ. 面積、5K8林小班内 2.2ha、5Kは林小班内 0.58ha																										
エ. 地況、5K8林小班、 標高400m、方位SE、傾斜急、土壌型BC、 5Kは林小班 標高400m、方位S、傾斜急、土壌型BC																										

オ. 林況 5K8林小班  
 広葉樹天然更新1年生  
 前生樹 広葉樹49年生 ha当り残積270m<sup>3</sup>  
 5Kは林小班  
 広葉樹天然林更新1年生  
 前生樹 広葉樹55年生 ha当り残積250m<sup>3</sup>

カ. プロット設定方法  
 5K8林小班に2プロット(0.09haと0.09ha)、5Kは林小班に2プロット(0.14haと0.14ha)の試験地を設定し、カシ、シイ、タブ、サクラ等の有用広葉樹のぼう芽を1株当り1〜2本を残し、芽かきを行った。

評価及び普及指針  
 試験区においては、芽かきを実施した結果、更新樹種の旺盛な成長が観測された。また、刈払を実施したことにより稚樹の更新状況と良好であり、今後の生育が十分期待できると考えられる。対照区においては、雑草等木の被圧により、更新対象樹種の発生が少く、また、生育状況と試験区と明らかな差がみられた。天然更新箇所において有用広葉樹の確保は天然更新を図るためには、更新樹の本数調整(芽かき)及び刈出等が必要と認められる。早期に本数調整を実施すると、風による倒木の発生が見受けられるので、施業にかつての検討が必要であり、今後の課題である。また、貴重樹等の稚樹の発生を期待するためには、早期の刈払が必要である。

任意課題	広葉樹天然林の人工補整施業法	
昭和60年度～平成2年度	高岡営林署	

## 1. 目的

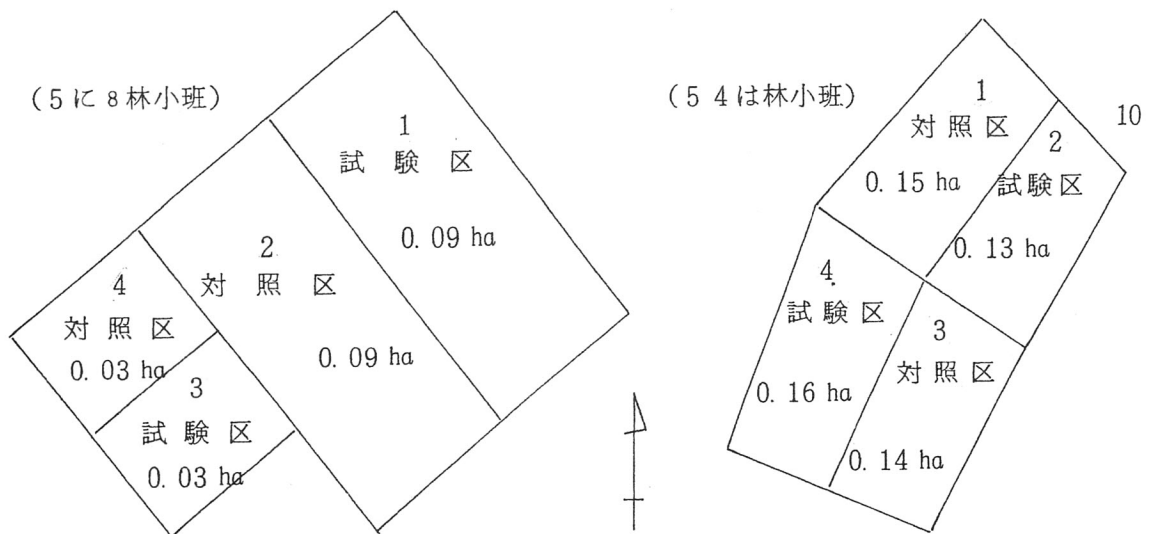
広葉樹優良林分を造成するため、人工補整法の技術と投資効果を究明する。

## 2. 試験地設定

- (1) 設定年月 昭和60年度
- (2) 場所 蜷尻国有林5に、林小班  
去川国有林54は林小班
- (3) プロット設定

カシ、シイ、タブ等有用広葉樹のぼう芽林（更新1年生）において1株当たり1～2本を残し芽かぎを行う試験区4プロットとそれぞれの試験区と隣接する箇所に対照区を設定し、成長比較試験を行う。

試験設定図



# 試験経過記録

区分 | 自主

高岡 営林署

(様式4)

## 調査事項

表-1 芽かき後における生立本数

林小班	プロット	プロット内の樹種別内訳						合計	割合 本数
		カシ	シイ	タブ	イヌキ	その他	計		
5K8	1試験区 0.09ha	53	23	64	6	34	230	2,556	
	3試験区 0.03ha	14	38	25	4	25	106	3,533	
5K11	2試験区 0.13ha	13	76	46		126	261	2,008	
	4試験区 0.16ha	39	217	20		22	297	1,863	

表-2 作業工程と経費

林小班	プロット	芽かき				雑樹刈出			
		プロット		ha当り		プロット		ha当り	
		人数	経費	工期	経費	人数	経費	工期	経費
5I-8	1試験区 0.09ha	人	円	人	円	人	円	人	円
	3試験区 0.03ha	0.625	7,500	5.2	62,500	0.5	6,000	4.2	53,300
5K11	2試験区 0.13ha	0.500	6,000	1.7	20,700	1.5	19,200	5.2	66,200
	4試験区 0.16ha								

表-3 生長量調査(試験区, 対照区)

林小班	区分	面積	根 元 径								樹 高									
			61				2				61				2					
			62	63	元	2	62	63	元	2	61	62	63	元	2	62	63	元	2	
5K8	試験区	0.09	22	29	37	42	47	7	8	5	5	153	194	242	292	342	41	48	50	50
	対照区	0.09				24									275					
	試験区	0.03	23	30	38	43	47	7	8	5	4	155	202	247	298	338	47	45	51	40
	対照区	0.03					30								280					
5K11	試験区	0.13	18	26	39	41	44	8	13	2	3	158	223	297	346	406	65	74	49	60
	対照区	0.15					42								380					
	試験区	0.16	25	37	52	56	59	12	15	4	3	194	287	374	454	494	93	87	80	40
	対照区	0.14					47								490					

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
  2. 状況写真は別途整理する。

#### 4. ま と め

- (1) 芽かきを実施した有用樹の成長は旺盛で、全試験区とも対照区に比べ優れている。特に根元径において顕著である。
- (2) 試験区は刈払を実施したことにより稚樹がよく発生し、生育も良好で、中にはケヤキ、イヌマキ等の貴重樹も発生していることから、刈払は貴重樹等の発生にも効果があるようである。対照区は雑かん木等の被圧により有用樹の発生も少く生育状況も試験区に比べ明らかに劣っている。

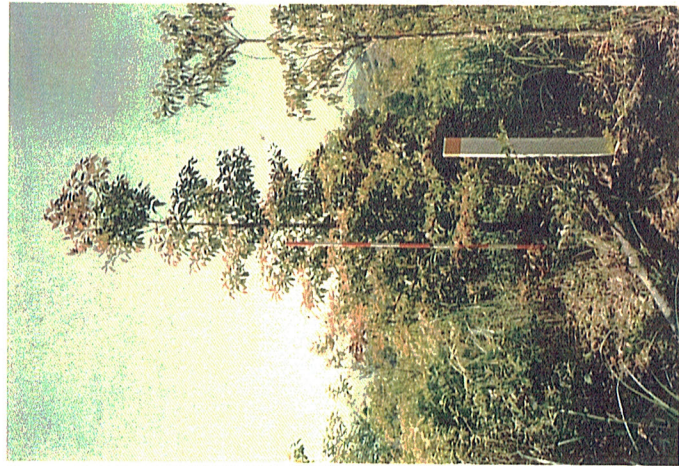
# 状 况 写 真

区分 自主

高岡 営林署

( 様式 6 )

5r.8 林小班  
試験区



对照区



状 況 写 真

区分 自主

高岡 営林署

( 様式 6 )

54 号 林 小 班

試 験 区



対 照 区

